

相沢は豊太郎に行為を抱いていたのか？ ただの親友だったのか

はじめに

まず、このテーマを選んだ理由として、「何故、相沢はエリスに真実を話したのか」ということを考えた時に実は相沢は豊太郎の事が好きだったのでは？と冗談半分で考えたがもう一度、舞姫を読みなおしてみるとあながち冗談ではないんじゃないか。と思いそれが本当か確かめたくなかったからです。

本論

本文である舞姫は一貫して豊太郎の視点から描かれたものである。そこで①相沢の行動
②豊太郎から見た相沢。 この二つから本論を進めていく。

①相沢の行動

相沢は本文中においてⅠ、失業した豊太郎に仕事を与えた。Ⅱエリスとの交際を断て。と言ったⅢエリスに真実を話した。と大きく分けて三つの行動、言動をとっている。まずⅠについて。豊太郎の失業を聞いた時、相沢は東京にいた。電話もつながっていない時代に日本から遠く離れた地にいる者に仕事を紹介するのは大変な労力であることに違いはなく、いくら親友とはいえ、このような労力を払うことができるのだろうかという疑問を感じた。しかしながら、豊太郎から見た相沢は活気のある人間であるので、親友のためにそのような労力を費やしてもおかしくはない。次にⅡについて。相沢は豊太郎との会話の中でエリスと別れることをすすめている。ここも親友という側面でみれば横道にそれてしまった友人に対する助言であるし、好意を抱いていたとするならば、エリスとの不仲を願った発言と取れるのでこの発言から結論を出すことは難しい。最後にⅢについて。これもⅡと同様に二つの側面から考えることが出来る。しかし、ここで考えたいのは、いくら親友だから

と言ってもそしてその選択が正しかったとしても、少なからず親友が傷付き人生が大きく変わるであろう行動を親友としての相沢ができるのか。ということである。たしかに親友が決心してもなかなか行動に移せていないとアシストしたくなると思う。しかし、本文の場面において相沢自身、豊太郎とエリスの仲を知らなかった訳ではあるまいし、豊太郎自身が行動を起こすことがベストであり、そのように促すことが親友としての役割であるということに相沢は気付かないような人間であったのだろうか。ということが疑問であるが残念ながら本文にはその根拠となるような文が見当たらなかった。ⅠⅡⅢより相沢の行動からは親友。好意を抱いている。この二つの側面があるがⅠⅡからは好意を抱いている。と読み取ることができるが普通ならば親友の立場と考えるのが自然な印象を受けた。

豊太郎からみた相沢

まず豊太郎は相沢の事を良き友であるが憎んでいる。と述べている。そして、その気持ちの元、この舞姫を描いている。Iで述べたように相沢の行動は豊太郎によって親友とも好意を抱いているように描かれている。つまり、相沢の事を友達と思う。憎いと思う。この二つの感情にいたばさみにされている豊太郎は相沢の行動を本来ならば友人としての行動であるように描くはずが友人と認めたくない、相沢に対する憎しみが友人とは違った書き方へいざなったのではないだろうか…

結論

相沢は豊太郎に好意を抱いていたかどうかは分からないが豊太郎は相沢を友人とは違ったものとして描くため相沢は好意を持っているように描いたと思う